

今年度の総合教育会議における 協議振り返り及び協議成果について

令和7年1月27日（月） 教育委員会

1 今年度の協議総括について

2 次年度の協議事項について

1 今年度の協議総括について

2 次年度の協議事項について

- 昨年度に続き、教育大綱、教育振興基本計画の実現に向けた協議を実施

本市不変の方針「こどもファースト」

岐阜市教育大綱に掲げる目指す姿、

岐阜市教育振興基本計画の基本目標の実現 に向けて、

昨年度までの協議事項を踏まえつつ、

更なる施策の検討・推進のための協議 を行う

1. 次年度に取り組むべき施策の具体化
2. 中長期的に取り組む施策の方向性・見通しの共有

1-2. 会議日程

● 今年度、以下のとおり計6回の会議を開催し、大綱実現に向けた施策協議及び成果検証を実施

回	開催日	協議事項	招聘者
1	5/24(金)	子どもの学びと成長を保障する9年間 ～義務教育学校開校に向けて～ 教育方針・カリキュラム等について	天笠 茂 氏 千葉大学 名誉教授
2	7/22(月)	安心して学べる学校の風土の醸成 子どもたちがそこで幸せとを感じる学校について	和久田 学 氏 (公財)子どもの発達科学研究所 所長
3	8/26(月)	不登校児童生徒への更なる支援 誰一人取り残さない支援体制の構築に向けて	上久保秀樹 氏 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導室室長補佐
4	10/15(火)	多様な考え方に触れる学びの充実 小規模校つながるプロジェクトの成果と課題について	外山 宏行 氏 近畿大学附属小学校 教育研究部長
5	11/21(木)	未来を拓く力を育むこれからの学校 子ども主体の学びや地域の特性等に応じた学校の在り方について	鈴木 寛 氏 東京大学 公共政策大学院 教授
6	1/27(月)	次期岐阜市GIGAスクール推進計画について 年間総括(協議振り返り、協議成果)	—

第1回

【日 時】 令和6年5月24日（金）14:10～16:00

【場 所】 ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

【テーマ】 **子どもの学びと成長を保障する9年間 ～義務教育学校開校に向けて～**

【招聘者】 千葉大学 名誉教授 **天竺 茂** 氏

【協 議】 事務局説明

- ・**岐阜市が義務教育学校で目指す姿（学校指導課長）**

義務教育学校で学びを通じてどのような子どもを育むのか、その具体像や方針についてご提示

- ・**9年間で新しい時代の学びを実現する義務教育学校（藍川北中学校長）**

これまでの小中一貫教育の取組や地域とのつながり、義務教育学校としての特徴を踏まえた「藍川北学園」のカリキュラム案をご提示

招聘者説明

- ・「義務教育学校等で実現すべき学びの姿 -小中一貫教育の未来- 」

協議事項

- ・義務教育学校で実現すべき学びの姿について

1-3. 第1回（協議総括）

協議意見の要旨

○義務教育学校で大事にすべき点は「連続性」「継続性」「専門性」「社会性」「創造性」である。「創造性」は藍川北学園では、「わかあゆ学」を通じて、子ども・教員・地域が一緒になって新たな価値を見出していくとよい。取組の「継続性」は、コミュニティスクールが担うことができる。「わかあゆ学」の取組は、次の世代の地域コミュニティを担う人々を育てることにもなる。9年間で1つのコミュニティスクールを形成していくことが必要。児童生徒も10年経てば有力な担い手となる。

○義務教育の質を上げることについては、これまでの効率的な知識の伝達等の良い点を活かしつつ、多様性の包摂、インクルーシブがポイントとなってくる。例えば、義務教育学校は小中ギャップを減らすことになるが、中学校でこれまでのリセットをしたい子への配慮も必要。異学年活動は、「社会性」「自己肯定感」を育むなど成果も多く、教科担任制も「専門性」を考えるとよいことだが、小1・2は教科の専門性よりも安心感を重視したほうがよいなどがある。

○義務教育学校は、小学校でも中学校でもない新しい学校という視点で、藍川北学園のカリキュラムや取組を、PTAの役員等だけではなく、どの家庭にも知っていただくことが必要。

○義務教育学校だからこそできる5～7年生の「連続性」を構築することが、小中一貫教育の成否のポイントではないか。

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① 令和7年4月 藍川北学園開校

- ・9年間の学びを見通した探究的な学び「わかあゆ学」
- ・2階～4階の各階に探究の部屋、1階にコミュニティルーム、集いの広場、フリーアドレスの校務センターを設置

② 令和8年4月 藍東学園開校

- ・異学年で学ぶホームづくりと、教科センター方式の授業づくり
- ・地域の方々と共に学習し続ける地域と共にある学校

③ 岐阜市型小中一貫教育のさらなる充実

- ・義務教育学校「藍川北学園」「藍東学園」の取組と成果を全学校に展開

第2回

【日 時】 令和6年7月22日（月）13:30～15:30

【場 所】 岐阜市庁舎 6階 6-1大会議室

【テーマ】 **安心して学べる学校の風土の醸成**

【招聘者】 （公財）子どもの発達科学研究所 所長 **和久田 学** 氏

【協 議】 事務局説明

・**だれもが安心して学べる学校づくりに向けて（学校安全支援課長）**

草潤中での知見を踏まえた不登校児童生徒への支援状況及び「ここタン」のデータと不登校出現率の相関について示した上で、未然防止の取組の必要性についてご提示

招聘者説明

・**学校風土向上の必要性**

不登校の現状と課題の分析、学校風土について

協議事項

・**だれもが安心して学べる学校にするために必要な取組とは**

1-4. 第2回（協議総括）

協議意見の要旨

○学校で学級という枠を超えてコミュニケーションを図るのは難しく、子どもが評価する学校の風土は変えにくいものであるからこそ、科学的根拠のある学校風土調査を用いることで、風土を変えるきっかけとなる。第三者の視点では、コミュニティスクールを活かすことが重要。

○草潤中の取組は評価されている。不登校の子が何を求めているのかを精度高く把握することが必要で、草潤中ではその仕組みができつつある。草潤中の取組を基に、学習不登校になった子の要因を分析し、適切な支援に繋げれば、救われるケースが増える。支援と発達障がい等の早期支援の充実で不登校は大きく減らせる可能性がある。

○教育と医療の連携は不可欠。学校風土改善は医療にかかる子を減らすことにもなる。

○不登校が増えている背景として、不登校が1つの選択肢として認知されているからとも言える。それをポジティブに捉えることもできるが、不登校になることで教育にアプローチできない状況は避けたい。やはり、学校風土がよい学校でよい経験をすることはとても大切なことである。

○学校でのトラウマが不登校そしてひきこもりにつながることを再認識できた。学校の風土改善がひきこもり対策にもなるが、学校でも家庭訪問が無くなる中、個人情報保護等の問題を考慮しつつ、アセスメントと分析、そして早期対応を行政がどうしていくとよいかを考えたい。

協議意見を踏まえた施策検討

●:具体的な施策(案) ○:今後の方向性、見通し

① 不登校の予防的支援の充実

・問題行動が起こした子、不登校になった子への従前の対処的支援より、「ここタン」を活用することなどでSOSを事前に受け止めたり、学校の風土を改善したりすることによる予防的支援の充実

② 岐阜市の求める学校の風土の醸成

・草潤中学校の取組から見えてきた支援のポイント「安心できる居場所」「信頼できる大人」「選択と行動」の視点から、全国学力・学習状況調査の質問などから学校の風土を見ていく。

第3回

【日 時】 令和6年8月26日（月）13:30～15:40

【場 所】 岐阜市庁舎 6階 6-1大会議室

【テーマ】 **不登校児童生徒への更なる支援**

【招聘者】 文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室室長補佐 **上久保 秀樹** 氏

【協 議】 事務局説明

・**不登校児童生徒への更なる支援（学校安全支援課長）**

岐阜市の草潤中学校、校内フリースペース、オンラインフリースペースなどの不登校対策の現状、成果と課題を踏まえ、今後の岐阜市の更なる支援についてご提示

招聘者説明

・**不登校児童生徒への支援の在り方**

不登校児童生徒への支援の文部科学省の基本的な考え方と、COCOLOプランについて

協議事項

・**不登校児童生徒への支援体制充実のために必要な取組について**

1-5. 第3回（協議総括）

協議意見の要旨

- 「ここタン」を使って、困った時にボタンを押してもいい、大人にSOSを出してもいいということを子どもたちが知ったことはとても大事なことで、学校の風土がよくなっていくことにもつながる。
- センター的機能をもった機関を設置する場合、教育と医療が連携する部分を入れていくべき。小児科医に不登校の相談が多くなっている。不登校に関して、医療の役割や重要性は高い。
- 不登校児童・生徒の保護者で、学校以外の相談先が分からず困っている方がいる。子ども・若者総合支援センターは様々な問題を担当しているので、教育委員会で窓口をもったほうがいい。
- 学校に行きたいと思えるような学校行事やカリキュラムを増やしていくことも大事ではないか。子ども、先生、地域で一緒に考えながら、子どもたちに決めさせていく授業を増やせないか。
- 子ども主体の学びの授業に転換する必要がある。授業の規範化を防ぐのは、教育委員会から学校、先生たちにデータをどう提供していくことも大切である。
- 居場所を確保した上で、学校・学級への復帰の道筋をどうつけていくかも大事ではないか。
- 「ここタン」の大人版ではないが、やはりセンター的機能をもった機関の設置は必要だと感じる

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① 岐阜市の不登校対策の継続

- ・草潤中学校のアップデートとその取組を全学校に展開
- ・校内フリースペース設置校の増加
- ・オンラインフリースペースの実施

② さらなる支援を推進するセンター的機能をもった機関の設置

- ・不登校の児童生徒・保護者の思いや状況を適切にアセスメントし、学校、市教委、子ども・若者総合支援センターなどをつないで、よりよくコーディネートするセンター的機能をもった機関の設置

第4回

【日 時】 令和6年10月15日（火）10:00～12:10

【場 所】 岐阜市庁舎 6階 6-1大会議室

【テーマ】 **多様な考え方に触れる学びの充実**

【招聘者】 近畿大学附属小学校 教育研究部長 **外山 宏行** 氏

【協 議】 事務局説明

・小規模校つながるプロジェクトの成果と課題（学校指導課長）

小規模校つながるプロジェクトの成果と課題を見つめることで明らかになってきた多様な学び方の充実に向けて必要なことについてご提示

招聘者説明

・多様な考え方に触れる学びの充実

近畿大学附属小学校での実践の紹介とICTの新たな可能性について

協議事項

・今、求められる学校での学び

1-6. 第4回（協議総括）

協議意見の要旨

- 教員のICT活用のスキルアップには、校内研修や市の研修が大事であり、情報の共有や交流を増やすことも重要。
- デジタル化したから、今までのことがいらなくなったのはでない。紙のドリルを廃止して、デジタルドリルにしたが、子どもたち自身が読み書きの必要性を感じて、自主的に取り組むようになっている面もある。もちろん、教師のアドバイスも必要。
- リアルな学びが重要。本物を見て触れること、体験すること。これは絶対に損なってはいけない。小規模校つながるプロジェクトでも、リアルな対面、玄関でのオンラインでの日常的なつながりなどは素晴らしいことである。
- 「魅力的なアウトプットは良質なインプット」という言葉が印象的。アウトプットに着目して授業を構築すると、子どもの見方・考え方が浮き出てくるし、鍛えることができる。
- 個別最適で子ども中心の学びの中で、学級集団や学習集団としての高まりが心配になるが、子どもたちに選択肢を与える中で、自然と集団作りができることもある。個別最適な学びと協働的な学びの両方が大切である。
- 岐阜市の姉妹校との日々のコミュニケーションがないので、姉妹都市に行くイベントの時にやるのではなく、オンラインで直接会話をしたり、オンライン掲示板やSNS等を活用して交流を深め、信頼関係を構築することが貴重な学びにもなる。

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① 小規模校つながるプロジェクトの充実

- ・オンラインでの合同授業やコミュニケーションの継続と、一校に集まってのリアルな学び合いも増やしていく。

② 授業のOS転換 （教育DXの推進事業）

- ・授業のOS転換をさらに進め、正解は先生が握っている授業ではなく、アウトプットに着目して、プログラムに対してのソリューションを共に求めていく授業を行う。

③ ICTを活用して 海外の姉妹校などにつながる

- ・姉妹校同士でオンラインで直接会話をしたり、オンライン掲示板でやりとりをするなど交流を深め、信頼関係を構築する。

第5回

【日 時】 令和6年11月21日（木）13:30～15:30

【場 所】 岐阜市庁舎 6階 6-1大会議室

【テーマ】 **未来を拓く力を育むこれからの学校**

【招聘者】 東京大学 公共政策大学院 教授 **鈴木 寛** 氏

【協 議】 事務局説明

・**未来を拓く力を育むこれからの学校（教育政策課長）**

今年度の総合教育会議の協議事項、岐阜市の児童・生徒、教職員の意見を基に、教育大綱・教育振興基本計画を基に基づく岐阜市の未来の教育を実現する未来の学校の要素について提示

招聘者説明

・**未来を拓く力を育むこれからの学校**

子ども主体の学びや地域の特性に応じた学校の在り方について

協議事項

・**岐阜市が目指す「未来の学校」で大切なものは何か。**

協議意見の要旨

○日本の子どもたちの精神的な幸福度が世界で2番目に低く、家庭からのサポートについても世界最下位という評価をしているデータがある。これについて、教育大綱にも「目指す家庭・地域の姿」とあるが、教育における家庭・地域の役割と責任に対する意識の向上は、これからも大事にしていきたい。また、家庭やコミュニティスクールで、大人が学び続けている姿勢、学びが幸せな人生につながることを示せるような社会が、未来の学校を支えることになる。

○「未来の学校」の先生には、「学びの伴走者になること」「コーチになること」が求められる。そして、理想の公正な個別最適な学びと協働的学びを実現も求められる。ただ、教職員の定数が変わらず、学級のサイズも変わらないのに学習の形態だけ変えようとする、教員のストレスはますます増えて、子どものウェルビーイングにつながらない。先生方に子どもたちに寄り添ってもらえるように、ハード面については教育委員会と行政で整えながら、教職員のマネジメント能力が問われてくる。

○「未来の学校」は、子どもが自己選択、自己決定ができる学校である。同時に、集団で行動したり、共に活動したりして、問題を解決するなど、集団行動や人間関係構築も学べことも大事にしてほしい。また、小中一貫の義務教育学校、中高一貫校、オンラインと通学のハイブリッド校、プロジェクト学習重視の学校、実習が多い学校など多様な選択肢があるとよい。

協議意見を踏まえた施策検討

●：具体的な施策（案） ○：今後の方向性、見通し

① 岐阜市型コミュニティ・スクール推進事業

・「コミュニティ・スクール推進事業者担当者会」「コミュニティ・スクール推進セミナー」等を通して、「岐阜市型コミュニティ・スクールの在り方」や「地域学校協働活動の在り方」を創り出す。

② みんなの未来の学校プロジェクト

・新しい学び方や制度、地域が学校に求める役割に対応するとともに、学校施設の老朽化対策を講ずることにより、教育大綱・教育振興基本計画に基づく岐阜市の教育を実現する「未来の学校」の具現化を図る。

第6回

【日 時】 令和7年1月27日（月）13:30～15:30

【場 所】 岐阜市庁舎 6階 6-1大会議室

【テーマ】 （第1部）次期岐阜市GIGAスクール推進計画（案）について
（第2部）年間総括

【協 議】 （第1部）

事務局説明

・次期GIGAスクール推進計画について

協議事項

・次期岐阜市GIGAスクール推進計画（案）について

（第2部）

事務局説明

・今年度の総合教育会議における協議振り返り及び協議成果について

協議事項

・今年度の協議成果及び次年度の協議事項について

1 今年度の協議総括について

2 次年度の協議事項について

2-1. これまでの議論

● 教育大綱の具現化を図るため、諸課題について議論（年間6回で5年実施）

○ これまでの経緯

令和元年度

いじめ重大事態発生

令和2年度

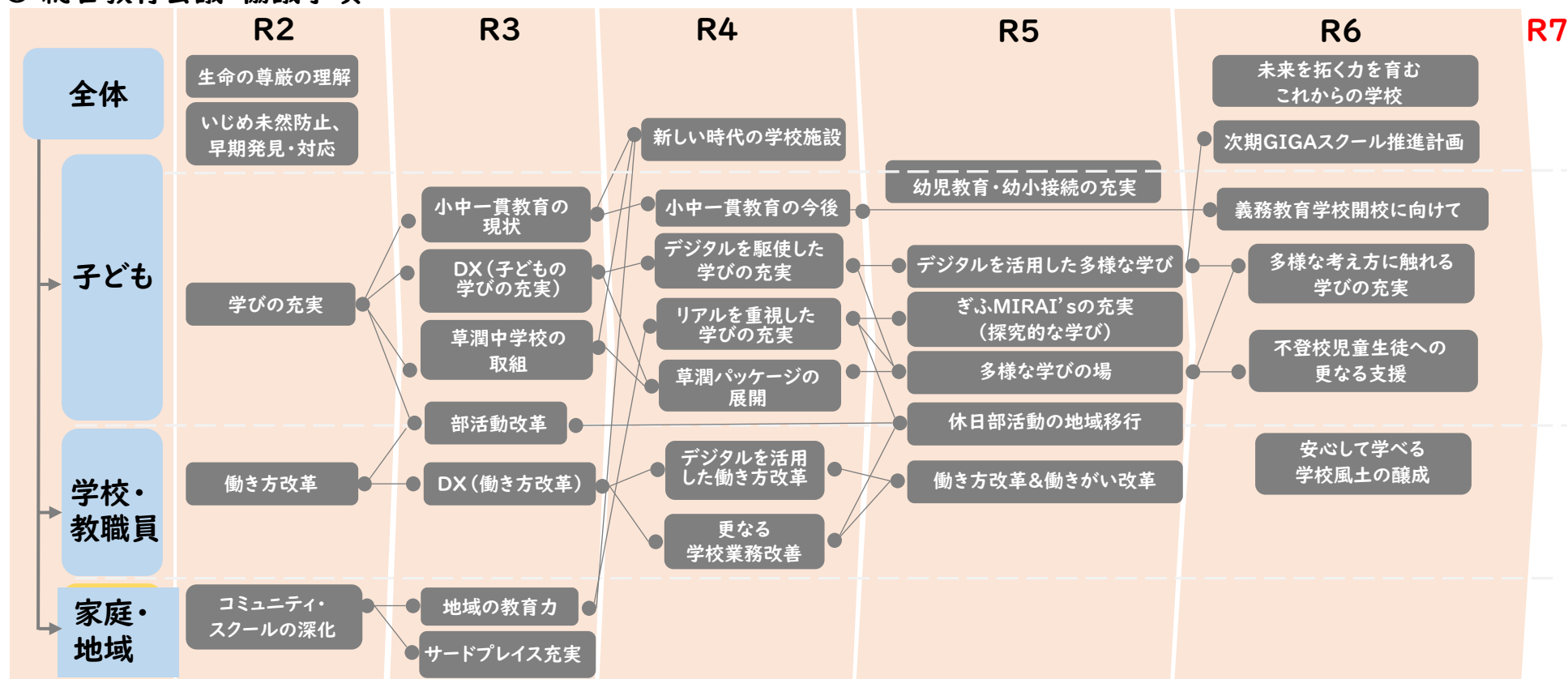
教育大綱改定

令和2～6年度

優先度の高い課題から議論を展開

- ・生命の尊厳の理解、いじめ関連
- ・DX、多様な学び、ぎふMIRAI's
- ・教職員の働き方改革、学校の風土醸成、
- ・不登校児童生徒の支援等 31 議題について議論

○ 総合教育会議 協議事項



2-2. 実現した取組

● 議論を踏まえ、着実に取組を具現化

○ 令和2年度以降に実現した主な取組

カテゴリー	取組
・生命の尊厳の理解	生き方の探究学習、生き方の探究学習スーパーバイザー派遣
・いじめの未然防止、 早期発見・早期対応	岐阜市いじめ防止対策推進条例改正、いじめ対策監・主任いじめ対策監配置、 学校におけるいじめ未然防止等の取組、生徒指導サポーターの設置
・安全安心な学校	市費スクールカウンセラー配置、ICTを活用した子どもの健康サポート導入、 こどもサポート総合センター設置、ハートフルサポーター（看護）配置
・教員の働き方改革	教職員の多忙化解消事業((株)ARROWSと連携)、スクールサポートスタッフ 配置、保護者向け情報発信システム導入、採点支援システム導入
・未来を拓く力を育む教育 個別最適な学び・協働的な学び	ぎふMIRAI's、義務教育学校整備、コミュニケーションツール導入、学習支援 ソフト導入、学びのOS転換、小規模校つながるプロジェクト
・校内の多様な学びの場	草潤中学校開校、校内フリースペース設置、オンラインフリースペース実施
・コミュニティ・スクールの深化	多世代参加、コミュニティ・スクールを主体とした教育活動の展開

2-3. 次年度の協議に向けて

多様な視点から協議の充実を図る

- ・これまでの議論を発展させ、次の段階へ移行するための議論
- ・岐阜市の「未来の学校」をさらに具現化していく議論
- ・将来的な課題を見据えた議論



教育大綱の具現化へ

キーワード

地域社会の
拠点となる学校
新規

新しい時代の
学校施設・
学習空間
R4・新規

未来の学校
R6・新規

これからの学び
探究的な学び
R5, R6・新規

※下段は議論実施年度

コミュニティ
スクール
R2

学校の風土
R6・新規

カリキュラム・マネジメント
スクール・マネジメント
新規

子どもの
発達理解
新規

義務教育学校
R6・新規
小中一貫教育
R3, R4, R6

地域の教育力
R3

不登校
R3, R4, R5, R6

学びの多様化
R2, R3, R4, R5, R6

DX・ICT
R3, R4, R5, R6

ICT活用と
子どもの健康
新規

部活動
改革
R3

サード
プレイス
R3

いじめ
未然防止
R2

生命の尊厳
R2

教職員の
働き方
R2, R3, R4, R5

幼小接続
R5

等

3. 論点整理

- これまでの説明を踏まえ、主に**以下2点の事項**について、**ご協議**いただきたい

① **今年度の協議成果** について

② **次年度の総合教育会議** において **協議すべき事項** について